

## 6年 巻末「回文づくり」

### 1、教材名 回文づくり

### 2、教材目標

- ・言葉を素材にして、既成概念にとらわれない自由な表現を楽しみ、言葉に対する感覚や、センスを磨く。
- ・回文づくりのルールを知り、ルールにそって回文が作れるようにする。

### 3、教材について

最近の子供たちは、だじゃれ・しゃれ・ユ・モアなどに慣れ親しんでいる。雑誌・テレビなど、マスコミの影響が大きいと思うが、話の中にその類いのことがよくでてくる。なぞなぞ・クイズ・占い（星座・動物・血液型・相性）なども大好きで給食中、休み時間などにワイワイ言いながら問題を出し合って遊んでいるところを見かける。

子供は古来、本質的に遊びが好きであるし、なんでも遊びにしてしまう柔軟性をもっている。言葉遊びももちろん好きである。しりとりから始まって、早口言葉・数え歌・五七五遊び・なぞかけ・漢字迷路・クロスワードなどなど、これまでにたくさんの経験をしてきている。

回文についていうと、回文という呼び方を聞くのは初めてだとしても、どこかでそれらしい遊びを見聞きしている子は多いと思う。

言葉遊びの中でも、回文づくりは難しい遊びである。言葉を知識として豊富にもっている子ほど、作るのが容易であると言えるかもしれない。しかし、言葉に対する鋭い感覚、言葉のセンスなども要求される、かなり高度な言葉遊びといえるだろう。

知っている言葉だけでなんとかしようというのではなく、国語辞典・漢和辞典・教科書等も使いながら、回文づくりに取り組ませたい。

回文づくりは、日本の言葉の奥深さに気づき、言葉に対するセンスを磨くきっかけになるのではないかと思う。

### 4、学習指導計画

- 第1次 学習計画を立てる・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1時間  
 ・言葉遊びの経験を話し合い、「回文づくり」をするための計画を立てる。
- 第2次 「回文づくり」をする・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1時間（本時）  
 ・まず2文字、3文字で出来る短い回文を作る。  
 ・教師が資料として用意したものや、自分で作った短い回文をもとにして、少し長い回文を作る。
- 第3次 回文発表会を行う・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1時間  
 ・笑えたで賞・考えたで賞・楽しんだで賞などの賞を作って、コンクール形式で行う。

### 5、本時の展開

#### ・目標

自分で作った短い回文や、教師が用意した資料などを参考にして、少し長い回文を作ることができる。

#### ・参考文献

ことば読本「ことば遊び」 著者・谷川俊太郎他 / 河出書房新社

ことば遊び 著者・鈴木棠三 / 中公新書

おもしろ国語ゼミナール チャレンジ！ことば遊び 監修・櫻本喜徳 / 文・面谷哲郎 / ポプラ社



5、次回にそれぞれが作った回文の発表会を行うことを知る。

・コンク - ル形式で行いそれぞれに「...  
...で賞」という賞をつけることを伝える。

#### 7、授業の振り返り（子供の感想から）

- ・言葉遊びおもしろかった。でも作って見たらほかの人と同じようなものになったりしたのですこし難しかった。
- ・言葉を考えるのはおもしろかったし、みんなのイラストが楽しかったのでよかった。またやってほしいです。
- ・思いつくのが大変だった。でも楽しかったからもう一回やりたい。
- ・いろいろなことをやって楽しかった。
- ・反対から読んでも同じになる言葉はいろいろあるなあと思いました。
- ・言葉を作るのに苦戦したけど、言葉遊びは楽しかった。
- ・だじゃれの「いるかはいるか」から考えたら意外と簡単にできてよかった。
- ・そのまんまのものもあればメチャクチャおもしろいのもあった。
- ・短い言葉のときは簡単だったけど、言葉が多くなってくると難しかった。
- ・考えるのがけっこう難しかった。
- ・回文は、短い回文をくっつけるとできることが分かった。それをすごく長くした、だれが一番長い回文を作れたか競うのもおもしろいと思う。
- ・回文を作るのに苦労した。給食の時も、掃除の時も考えていた。難しかったけど楽しかった。
- ・初めの頃は、けっこう簡単かなと思ったけど、作ってみると難しかったです。でもおもしろかったです。

#### 8、児童作品例